

2021.01.24 はこだて国際科学祭2021 キックオフ

みんなで作る
はこだて国際科学祭

サイエンス・サポート函館 (SSH)

美馬のゆり

noyuri@fun.ac.jp

はこだて国際科学祭

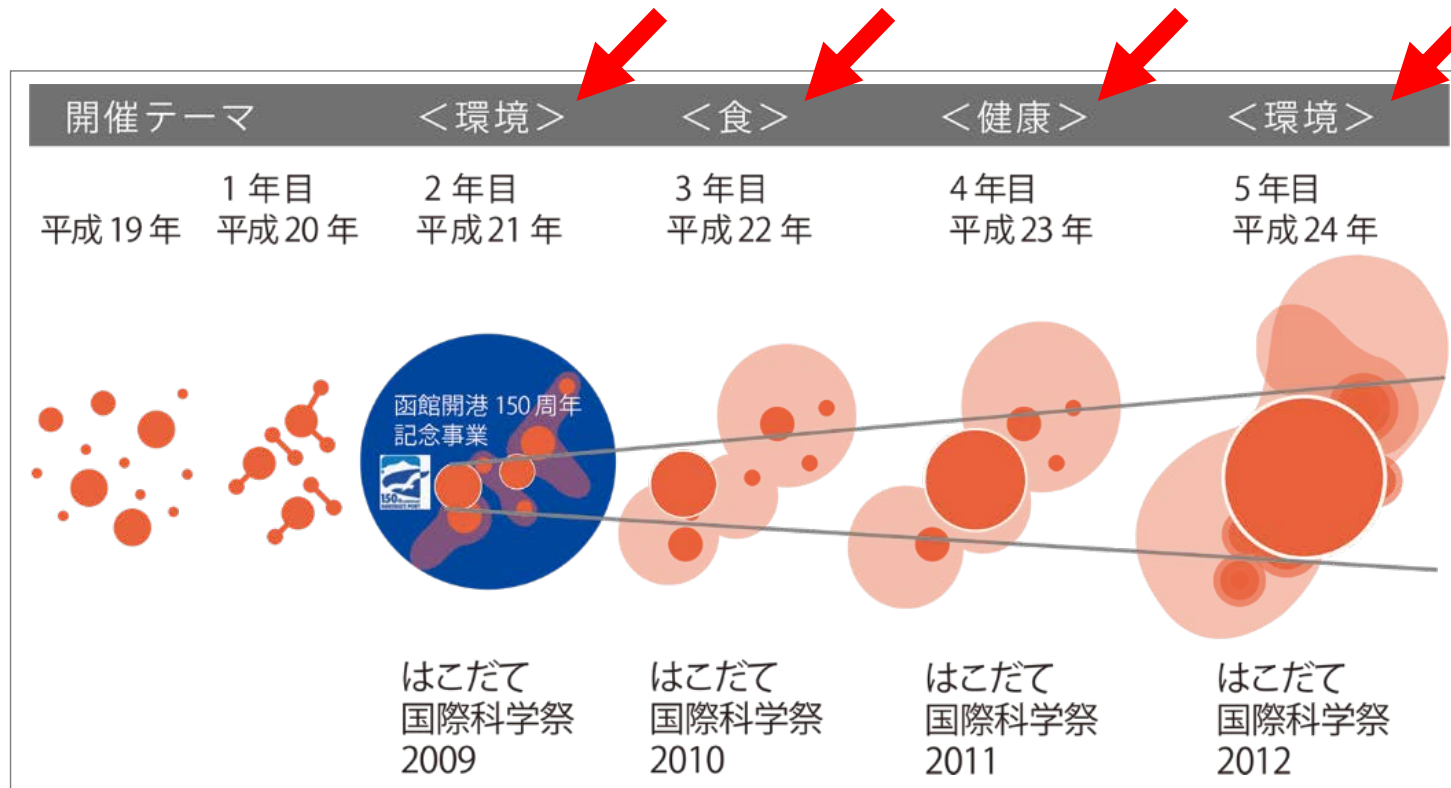
子どもから大人まで、素人から専門家まで



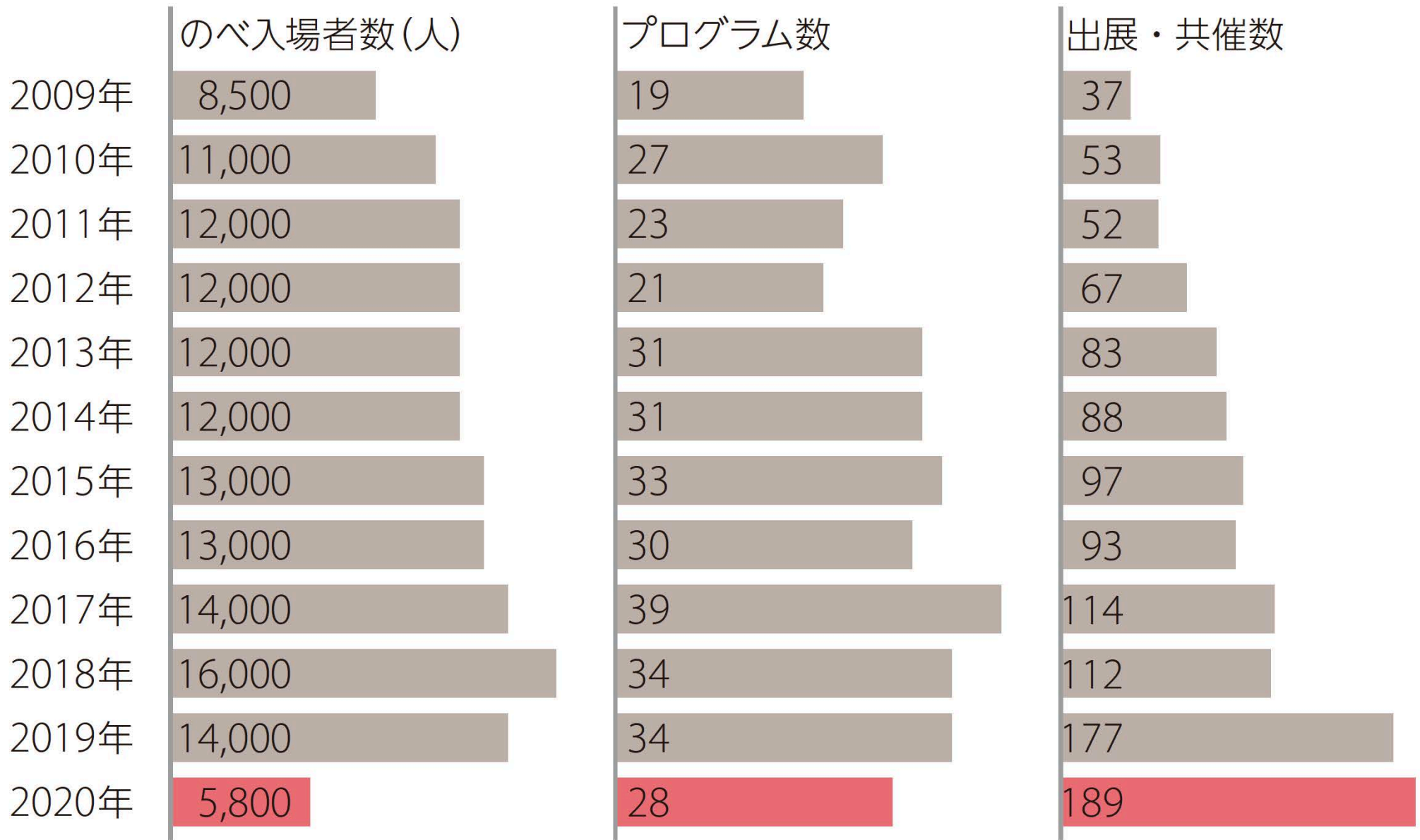
はこだて国際科学祭

(2009～)

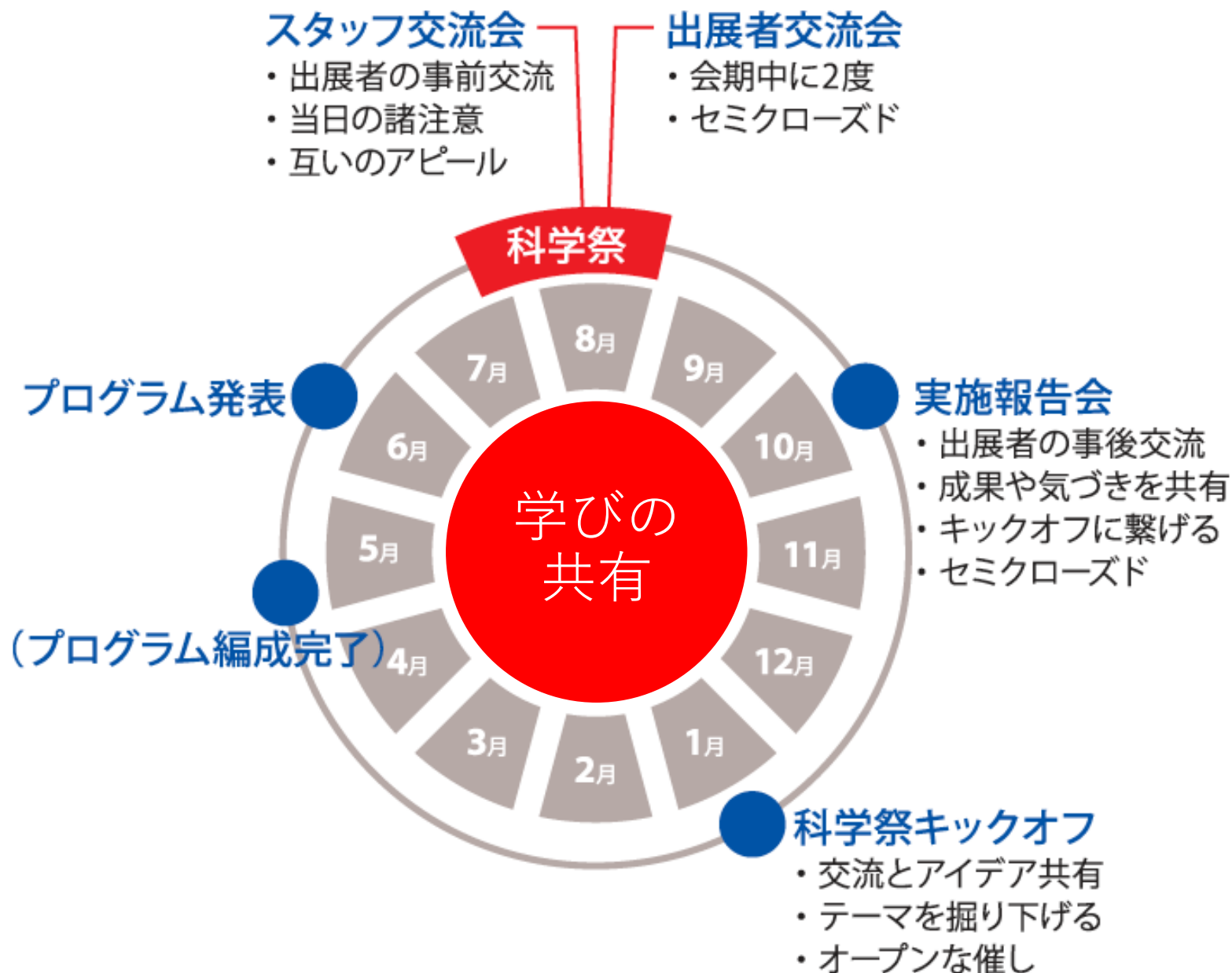
- すでに活動していた人たちをつなげ
- 年に一度の大きなイベントを開催



科学祭開催実績



科学祭の学びのサイクル



「祭」という文化的装置

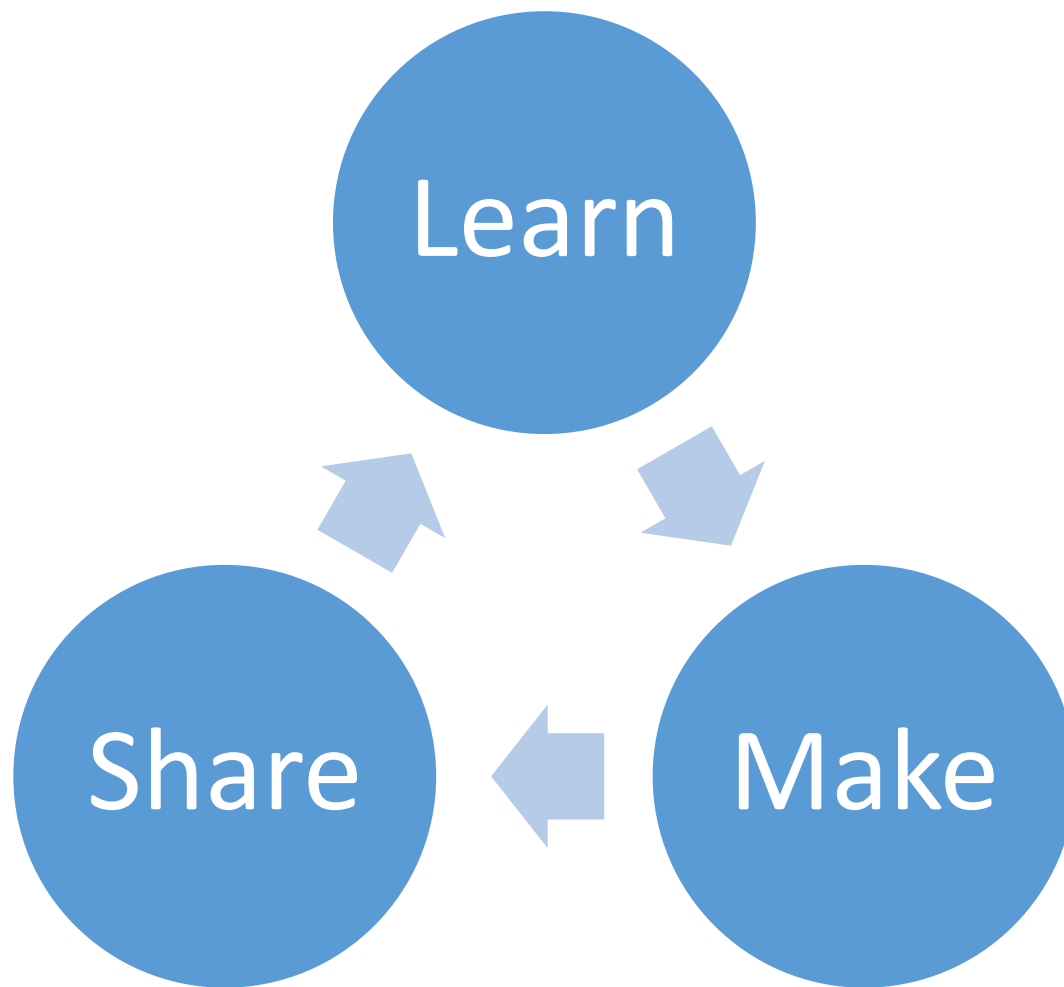
- 生涯学び続ける社会において
 - 学びの場、つながりの場の創出
 - 社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）
- 祭は
 - 鑑賞するものではなく、参加するもの
 - 参加するのに敷居が低い
 - 多様なコンテンツが可能
 - 祝祭、楽しい、昂揚感、ハレの場
- 地域のつながりから、世界のつながりへ
 - 伝統や地域性を考えつつ、世界の課題を意識する
 - 時代とともに変わる祭のスタイルやコンテンツ
 - 開港都市函館の精神、北海道の開拓精神

三方よしの発想で

- 20年後の函館を考える
- ひとづくりから始まるまちづくり
- 持続可能な方法、内容を考える
 - 実施する人にとっても良い
 - 参加する人にとっても良い
 - 函館の未来にとっても良い

大人のアクティブ・ラーニング！

学んで、つくって、共有する



S S H 活動指針

よりよい社会を実現するために

活動指針その1 「科学をまちに出す」

身近にある科学を見つける
研究室にある科学を持ち出す
科学と縁遠い人たちに接近する

活動指針その2 「みんなで話をする」

新しいことを知り周囲に語る
まわりを巻き込み形にする
楽しみながら役立てる

活動指針その3 「函館から世界を変える」

世界で起きていることに目を向ける
足元にある課題を見つけ解決する
よりよい地球市民となる

科学イベントのつくりかた

- 物語る（アイデア、ビジョン、インパクト）
 - イベント開発の目的（来場者・参加者に伝えたいこと、take home message）
 - その目的に至った理由（問題意識：函館が抱える課題、社会の認識の問題）
 - 参加者や社会に対する影響
- つくる過程でこだわりたいこと、工夫すること
 - 5W1H
 - 手法として
 - 内容として（函館らしさ、北海道らしさ）
 - 空間・配置・動線・他のイベントとの関係
 - 予算やスケジュール、体制について
 - 外部関係者（協力研究者、企業など）との協力や交渉
 - 内部関係者（他のイベント、チームなど）との協力や交渉
 - 周知の方法

イベントの種類

例年は

- 定番企画
 - 企画展
 - 科学屋台
 - 科学夜話、夜話スペシャル
 - サイエンスダイアログ
 - サイエンストーク（高校生の発表交流会）
 - キッチンサイエンス（子ども、大人）
 - 科学演劇
 - サイエンスショー
 - 昆虫学習会
 - 手回しオルガン演奏会など
- 特別企画
 - サイエンスライブ
 - 路面電車
 - 企業CSR体験学習プログラム
- 連携企画
 - 青少年のための科学の祭典
 - メカニズムフェスティバル
 - マリンフェスタ／オーシャンナイト
 - 南北海道創才セミナー
 - ジオフェスなど

ショー、ワークショップ、カフェ、発表会、
展覧会、ライブ、ツアー、講演会など

主な開催場所

例年は

- 五稜郭タワーアトリウム
- Gスクエア
- まちづくりセンター
- 青年センター
- 中央図書館（視聴覚ホール、カフェボルヤン）
- 千代台公園運動場
- 国際水産・海洋総合研究センター
- はこだてみらい館
- 大沼国際セミナーハウス（七飯町）
- 函館市縄文文化交流センター（旧：南茅部町）
- 道南農業試験場公開デー（北斗市）
- 競馬場など

オンライン開催に向けて

- 三蜜を避けつつ、三方よしの発想で
- 一方向型
 - リアルタイム配信／オンデマンド配信
 - 期間限定する／しない
- 双方向型
 - 参加者が事前に準備要／不要
 - 主催者が事前に参加者にキットなどを送付／しない
- オープン／クローズ
 - 事前登録なし／あり

2021年テーマは「環境」

海、大地、縄文、温泉、食、防災など

オンライン
開催

過去の科学祭に関する情報 <https://sciencefestival.jp/about/>

